

2016年10月の金融経済概況のポイント

■景気の基調判断

- 今月も景気判断については、「個人消費等の回復に遅れがみられるが、基調的には持ち直している」との判断を継続しました。個人消費は一部大型店の閉店セールの影響がみられましたが、基調としては依然盛り上がりを欠いています。観光は、台風の影響に加え、外国人観光客が頭打ちになっていることから、弱めの動きとなっています。一方、公共投資は緩やかに増加しているほか、雇用環境は改善傾向が続いています。

■個人消費の動向

- 大型店売上高は、8月は前年比▲1.5%でしたが、9月は同+10.5%と大きく伸びました。もっとも、9月の伸びは一部大型店の閉店セールによる売上増加の影響が大きいと思われます。周辺の店舗では逆に売上が減る影響が出るなどイレギュラーな動きとなっていますが、こうした特殊要因を除くと、個人消費の基調は変わっていないとみています。
- 9月の新車登録台数は、前年比+10.1%と比較的大きく伸びました。2か月連続の増加です。「軽自動車を除く車種」と「軽自動車」とに分けてみると、「除く軽自動車」は前年比+11.2%と堅調です。新型車種を中心に売れているようです。「軽自動車」も+8.1%と伸びており、3か月連続で前年実績を上回っています。消費税や軽自動車税の引上げなどにより、軽自動車は長く前年実績を下回る状況が続いていましたが、ようやく回復に向かいつつあるようです。個人消費の指標の中でも、自動車販売は、比較的しっかりした動きになっているとみています。

■観光の動向

- 観光は、8～9月は夏季から紅葉期の本格シーズンだったのですが、残念ながら弱めのデータが目立ちました。
- 道北4空港（旭川、稚内、女満別、紋別）の旅客数は、8月は前年比+3.8%と前年実績を上回りましたが、9月は同▲3.6%と前年割れでした。国際線は8月同▲12.8%の後、9月は同▲52.6%と大幅減少となり、4か月連続の前年割れとなりました。国際線は4月から台湾便の一部が減便になっていることに加え、9月から北京便が運休になったことが響きました。
- ホテル・旅館宿泊者数は、8月前年比▲4.5%、9月同▲11.8%でこちらも4か月連続で前年割れとなりました。9月の市内のホテルの稼働率は、91.6%と引続きフル稼働に近い高水準ではありますが、前年比では小幅低下しています。
- 各地観光は、ウトロ温泉が9月前年比+2.1%と好調を持続したほかは、軒並み前年割れの実績となりました。
- 観光業者の方に話を伺うと、中国、台湾を中心に外国人観光客が減少しているようです。旭川発着の国際便減便の影響に加え、札幌方面から回ってくる観光客も頭打ちになっているようです。年初来の円高が影響しているのではないかとのが聞かれました。また、8月下旬の度重なる台風襲来により各地で道路の通行止めが発生したこともあって、層雲峡地区の宿泊施設を筆頭に旭川市内ホテルなどでも、キャンセルが相次いだようです。こうしたキャンセルは、道路の復旧後も尾を引いているようです。このほか、9月に関し言えば、シルバーウィークが去年は5連休だったのが、今年は3連休だったことも影響しているとのこと。
- この先、観光はオフシーズンですが、これまで道北地域の景気を支えていた観光に頭打ち感が出てきたことは、やや気掛かりです。

■公共投資の動向

- 公共工事請負額は、上川、オホーツク、宗谷の3総合振興局の合計で8月

は前年比+52.0%と大幅増加、9月も同+4.1%と増加しました。この結果、4~9月の累計では、同+3.4%と前年実績を上回っています。地域別では、ウエイトの大きい上川が高い伸びを示しています。建設業者の方に伺うと、農業土木を中心とする前年度補正予算分の執行や今年度予算の前倒し執行に加え、災害復旧のための緊急工事もあり、各社とも繁忙となっているとのこと。今年度補正予算も決まり、今後とも相応の工事量が確保できるのではと期待しているようです。

■住宅着工

- 8月の新設住宅着工戸数は、前年比+31.0%と大幅に増加しました。持家（同+15.9%）、貸家（同+6.3%）とも増加しています。道北地域の新設住宅着工戸数は、これで7か月連続で増加しており、本格的な回復につながるのか着目しています。

■雇用動向

- 雇用状況を示す指標は、引続きタイトであることを示しています。8月の有効求人倍率は、旭川が1.05倍、稚内が1.20倍、北見が1.16倍、網走が1.17倍でした。新規求人数も、全体で前年比+11.5%と高い伸びを続けています。

■今後のポイント

- 10月3日に公表した短観では、道北地域の企業の業況判断DIは+17と良好だった（3か月前と比べても改善）ほか、収益見通しも比較的しっかりしたものとなっていました。こうした調査結果を踏まえても、現在の道北地域の景気は決して悪くはなく、そこそこ良い状態にあるとみています。
- 今後に関しては、次の5点に着目していきたいと考えています。

① 観光の動向

災害の影響もあって足許弱めの動きが目立っていますが、これが一時

的なものにとどまるか否かがポイントになると思います。

② 個人消費の動向

一部大型小売店閉店後の旭川の個人消費がどうなるか、注目したいと思います。また、足許堅調に推移している自動車販売も息の長いものになるか否か、注目しています。

③ 設備投資

短観調査結果をみると、企業の収益は比較的良好であるにもかかわらず、設備投資は低調です（2015年度実績：前年比▲69.0%、2016年度計画：同▲20.0%）。道北地域で設備投資が伸びない背景には、地域経済の先行きに自信が持てないことや後継者難など、金融面以外に様々な要因があると思われます。こうした中で、道北地域においても、良好な金融環境の下で、地元企業による設備投資が着実に出てくることを期待したいと思います。

④ 住宅投資、民間建築

新設住宅着工戸数や建築物着工床面積（非居住用）が足許伸びているのが一時的なものか、それとも金利低下等の効果として顕現したもので長続きするものなのか、見極める必要があると思います。

⑤ 賃金の上昇

企業業績が比較的良好である中で、賃金を上げる会社もみられていますが、これが目に見えて広範化しているというようにはまだ感じられません。道北地域の景気がしっかり回復していくためには、消費が活発になる必要があります、そのためには所得が着実に増える必要があります。その意味で、地元企業の賃上げの動きは今後の大きなポイントになると思います。

以 上